



みねのぶ

1月号



■発行日/令和8年1月1日/No.1485号

■発行/峰延農業協同組合

〒079-0192 美唄市字峰延37番地

Tel 0126(67)2111 Fax 0126(67)2793

ホームページアドレス <http://www.ja-minenobu.or.jp/>

■編集/総務課 ■印刷/空知印刷株式会社

令和8年の新春にあたり



代表理事組合長

伊藤 俊 春

令和8年の輝かしい年明けに当たり、組合員皆様方にお祝い申し上げるとともに、平素より当農協の各事業に対しましてご理解を頂戴し、ご利用ご協力いただいていることにつきましても、改めてお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、世界情勢において、まず3年以上経過しているウクライナ情勢ですが、国際社会においては、西側陣営とグローバルサウスの分断という新たな問題も出てきています。次に、イスラエル・パレスチナ衝突から続く戦闘も解決の兆しが見えず中東の緊張となっています。そして、米中関係の競争激化ですが、トランプ氏が再び大統領に就任し対立が深まっています。そのような影響で、世界経済が不安定な状況ともいえます。日本としても、的確な外交政策によって、解決するべく対応してきましたが、現在、中国との関係が悪化しています。少しでも早く、落ち着くような対応を期待しています。

私たち農業団体の関心事である農業情勢については、政策として食料安全保障の強化をはじめ、スマート農業の導入支援、農地の集約化と経営基盤の強化など、専業農家として期待の持てる内容であり、その施策に期待するところです。しかし、現実には

昨年からの「令和の米騒動」を見ても、農水省において需給ギャップと在庫認識の相違が要因の一つでした。競争入札での備蓄米の放出では収まらず、随意契約による放出まで行い、流通量の確保という点は効果があつたと思われませんが、小売価格については一過性のものでした。新米の収穫が始まるとさらに生産者価格が高騰し、連動して小売価格も5キロ4千円を超えてしまい、消費者のコメ離れが不安視する中で、今年の作付けに関して適正な対応が必要になってきます。将来的な施策と、現状に対応する施策のバランスがより一層重要になってきます。生産者と消費者が納得できる価格形成と、経営所得安定対策などの政策支援はセットでなければ成り立たないことを、今後とも要請活動を継続していきます。

昨年の営農については、近年では当たり前になってきているような気象状況ですが、昨年は春からの天候不順

により春耕期の作業が遅れ、夏の猛暑、そして秋についても天候不順ということで、収穫作業などが思うように進まず苦勞が多い年でした。台風の影響が西日本を中心に多かったです。この地域は幸いなことに影響はあまりありませんでした。結果的に一部の野菜や根物は被害が大きかったものもありましたが、米をはじめ基幹作物については概ね平年作という結果でした。このことは、農協からの情報発信などの支援体制が生かされたことと、生産者皆さんの基本技術をもとに、気象状況に合わせて管理された結果だと思っています。

販売事業としては、集荷が問題になっていくことについて、昨年から取り組んできた流通改革米について、今年度は主要品種すべてを対象に進め、施設の受け入れについても負担の少ない形を提案して進めましたが、契約段階においては芳しくない結果でした。各施設の予約対応については概ねよかったという声が多かったです。運搬については打ち合わせ不足で皆様方に大変ご迷惑をおかけしました。懇談会の中でも説明しましたが、施設の効率的な運営も含めて、今後提案していきますのでよろしくお願ひします。また、精算につきましては、

遅くなりましたが、手取り確保とできてきたと思います。米価の高騰で経営に余裕が出来てきていますが、今後に向けて安定的な所得確保の計画を厳しい視点で検討することが重要です。また、今年の主食用米の作付けに関して検討されていると思いますが、将来にわたり安定的な価格維持のために生産者自らみんなで取り組む「生産の目安」に対して、ご理解をいただきたいと思います。

先月に行なつた懇談会や常会をはじめ、組合員皆様方から日頃よりいただいている意見に対し真摯に受け止めて、組合員をはじめ地域の皆様に、必要とされる農協運営を継続して進めてまいります。

今年の干支は、丙午（ひのえうま）です。丙は火の要素を持ち、生命のエネルギーや明るさ、道を切り開く力強さを意味します。また午は、躍動感、行動力、成功、幸福を運び、物事が順調に進むことを表します。そのことから、強いエネルギーで道を切り開き、新しいことを始めるのに最適な活気あふれる年とされるそうです。今までの積み重ねてきたことからの次のステップへ続く、素晴らしい年になることを祈念し、新年のご挨拶に代えさせていただきます。

令和8年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会
代表理事会長
樽井 功

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業については、春先から天候に恵まれ、各作物の生育は全般的に平年よりも順調に推移しておりましたが、道内の広範囲において被害が発生した夏場の記録的な豪雨や干ばつにより各作物等の収量および品質に影響が出た年となりました。

近年、気候変動等による自然災害の多発や栽培適地の変化、円安基調の継続や国際紛争等に起因する

資材価格の高止まりが農業経営に大きな影響を与えており、農業農村を取り巻く環境は大きな変革期を迎えております。

この様な状況の中、昨年7月に実施された参議院議員選挙において、組合員・JA役職員をはじめとする多くの皆様のご支援をいただき、全国農業者農政運動組織連盟が推薦した東野ひでき氏を国政に送り出すことができました。

この一歩を重要な礎とし、改正基本法により基本理念として位置付けられた、国民一人一人の食料安全保障の確保や環境と調和のとれた食料システムの実現、持続可能な北海道農業の確立に向けて、組合員・JAの声を国政に届ける活動を継続していきます。

JAグループ北海道は、今後とも組合員との対話活動を二層強化し、協同組合の理念と精神を組織結集力につなげ、組合員の皆様が夢と希望を持つて営農と生活が続けられる環境を整え、「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」の実現に全力で取り組んでまいります。

結びになりますが、本年は午年です。午年はエネルギーと行動力が高まり、挑戦や成長の機会が得られる

年とされています。この謂われにあり、本年が北海道農業の更なる飛躍の年となることと、皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



代表理事組合長

伊藤 俊春

専務理事

高田 豊

理事

橋本 昌宏

〃

八田 重忠

〃

白石 陽一

〃

佐々木 儀一

理事兼事業統括室長

小田 勝行

代表監事

佐藤 和彦

監事

石川 弘樹

員外監事

安沢 義孝

外職員一同



徳 報

飢饉と暴動



尊徳翁は次のように話された。困窮を救援する時でも、凶作、飢饉では、救援が甚だしく急を要するものであり、一日も先に延ばすことはできない。これを延ばせば、人命に影響するとともに、重大な事態が発生する。その事態とは、暴動である。

論語に、「小人窮斯濫矣（しょうにんきゅうすればここにみだる）」とあるように、飢えた人々は、むなしく餓死を待つよりは、たとえ罰せられるとしても、暴力を使っても、一時的に十分に飲食し、快楽を得てから死に向かおうと、裕福な家を打ち壊し、町や村の家々に火をつけるなど、簡単に言えないような悪事を引き起こすのは、昔からのことである。恐れるべきことである。

この暴徒、乱民は、必ずその土地の裕福な家に押しかける。このことは、大風が太木に当たるとあるようなものである。裕福な者は、前以てそれを防ぐ手立てを講じておかなければならない。

(夜二九五)

Coop さつぽろのイベントで Foodcom(天使大学)と 食育体験実施

11月22日、大和ハウスプレミストドームでCoop さつぽろ「食べる・たいせつフェスティバル2025」が開催され、当JAの谷村職員とFoodcom(天使大学)のメンバー4名が参加しました。このイベントは食べることの大切さや環境くらしなどについて学ぶことを目的としたもので、子供達が様々な体験ができるプログラムが各企業から多数用意され、当JAのブースでは「捨てるのはもったいない!ベジブロスでフードロス解消」という内容で多くの子供達が参加しました。

参加した子供たちは炊飯されたななつぼしを適量ラップで包みおにぎりづくりを体験しました。中には、



ハートの形などをしたおにぎりを作っている子供たちもいて大変にぎわっていました。

おにぎりづくり体験のほかにベジブロスを使用したスープの実食も行い、子供たちだけでなく大人の方からも大変好評で、レシピなどを聞かれる場面も見られました。

参加したお子さんからは「自分で握ったおにぎりが一番おいしい」といった声が聞かれ、参加者もすぐに満員になるなど大盛況でした。



令和7年度役員研修を実施

JA みねのぶでは、11月6日から7日にかけて役員視察研修会を実施しました。今回は北海道北斗市の農業関連事業者および研究機関を訪問し、現場の取り組みや最新技

術について理解を深めました。

株式会社松田商店では、北海道産の豆類を主力とし、品質管理や安全性の確保に力を入れた流通システムを整備し、消費者に安心して選んでいただける農産物の供給に取り組んでいました。また、北海道立道南農業試験場では、水稻が高温によって受ける影響の仕組みや、それに対処するための方法について理解を深めることができました。

今回の視察を通じて、先進的な取り組みや現場の工夫に触れ、今後のJA事業への応用や連携の可能性について多くの示唆を得ました。今後とも地域農業の発展と組合員サービスの向上に努めてまいります。



JA一部業務の臨時休業のお知らせ

日頃から当JAをご利用いただき誠にありがとうございます。

年度末決算棚卸のため、下記の通りJAの一部の業務を終日臨時休業いたします。ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご理解いただきますようお願いいたします。

なお、下記以外の業務は通常通り営業いたしますので、ご利用をお待ちしております。

記

臨時休業する日 令和8年1月30日(金)
臨時休業の業務 ・営農資材店舗
・利用精米所

(JAみねのぶ 総務課)



おくやみ申し上げます

黄田町子さん

(95歳) 11月20日

美唄市上美唄町南

消防設備の説明と 消防訓練実施

11月26日、JA建物に設置されている消防設備の説明と避難訓練について研修会を行いました。参加したのは、各課の代表2名ずつを中心とした職員13名です。

講師は岩見沢にある(有)北央防災設備の永坂社長で、同社は長年当JAの事務所や倉庫等に設置の消防設備、警報設備の法令による保守点検を担っています。

最初に三階会議室で資料を使った説明が行われ、初期消火の重要性や通報、避難のタイミング、避難した人員の把握等、安全な避難と確認の



二階事務所和室内に設置の火災受信機の説明

重要性を学びました。続いて二階事務所に全員で移動し事務所内に設置の火災報知器や受信機の使い方を学びました。



二階事務所内に設置の火災報知器の説明



屋外で訓練用水消火器を使った実地訓練

最後に屋外で、消火器の使い方の方の説明を受け、訓練用の水消火器を使った初期消火の訓練を全員で行いました。参加した職員は消火器のピンを抜き、ホースを火元に向け、本番さながらの消火活動を行いました。消防訓練は消防法で実施するように定められ、JAに義務付けられています。

青年部が青年大会を開催

11月26日、JAみねのぶ青年部は当JA大会議室で令和7年度の青年大会を開催しました。

青年部員が自ら興味のある営農に係る事項について年間を通して調査を行う「営農試験調査」の実績を発表した他、情報把握と農政活動として、青年部組織で実施している研修の参加報告や優良生産者の表彰を行いました。

本年度の営農試験調査は、バイオステイミュラント資材を活用したサツマイモの生育比較試験をテーマに収量性や収益性について調査した結果を発表しました。

研修の参加報告では、美唄市内三農協合同の青年部組織による九州方面の視察報告と空知青年部連合会による、海外研修の台湾視察報告

が行われました。

優良生産者表彰では、稲作（ななつぼし）の部、麦作（きたほなみ）の部、直播水稻（えみまる）各3名の候補者を選出し審査しました。審査員は空知農業改良普及センター職員2名、高田専務、青年部事務局長、青年部役員の皆さんで、審査の結果、稲作（ななつぼし）の部と稲作（えみまる）の部で大槻尚也さん、麦作（きたほなみ）の部で中澤遼太さんが表彰されました。

その後、JA北海道中央会高橋様から「協同組合について」の講演があり、参加した青年部員の皆さんは真剣に聞き入っていました。



JAみねのぶ営農推進協議会 「水稲・小麦・大豆営農講習会」 が開催される

11月26日当JA本所3階大会議室にて、JAみねのぶ営農推進協議会（営農販売課）主催による「水稲・小麦・大豆営農講習会」を開催しました。

空知農業改良普及センター地域第二係から3名を講師に招き、管内生産者24名が参加し、本年の生育経過や気象条件などを振り返り翌年に向けて、水稲においては着色粒の要因となったカメムシの食害やく



さび粒についての対策、近年散見されている紋枯病、疑似紋枯症の対策、小麦については、8年産播種後の状況、昨年多く発生した病害（特に赤さび病）について、説明がありました。大豆については、腐敗粒、カメムシ食害の対策について説明がありました。参加した生産者は真剣な表情で講習を受け、活発に質問していました。

令和7年度第2回日本農業新聞 「コンプライアンス&広報研修」 を開催

12月8日、当JA会議室にて、本年度2回目となる「コンプライアンス&広報研修」を開催し、主査以下13名の正職員が参加しました。

日本農業新聞の波多腰職員を講師として、コンプライアンスの重要性和記事の作成方法について学びました。

前回の研修から約6か月の間、職員は日本農業新聞を読み、興味を持った記事のスクラップや記事の作成に取り組んできました。

研修当日はグループワークを通じて各自の課題を共有し、記事のブラッシュアップを実施。新聞への投稿を目指した内容に仕上げ、発表を行いました。

また、他の農協の取り組みや最新の農業情勢に触れることで、職員同士の意見交換も活発に行われ、有意義な学びの場となりました。

今後も、農業情勢の理解を深めることを目的に、日本農業新聞の継続購読を通じて、情報収集と広報力の向上に努めてまいります。

第10回（11月定例）理事会開催

11月25日開催の定例理事会において決議された事項は次の通りです。
（決議事項）

1. 理事に対する貸付について
2. 理事に対する令和7年度クミカン取引の供給限度額等の変更について
3. 令和8年度営農計画審査方針及び基準の設定について
4. 令和8年度役員報酬の諮問について
5. 役員賠償責任保険契約の締結について
6. 持分の減口について
7. 規程類の制定について
8. 年末手当の支給について

JAみねのぶ青年部が 第78回通常総会を開催

12月18日午後5時、JAみねのぶ青年部が、当JA大会議室にて、第

78回通常総会を開催しました。

渡辺勇太副部長による「開会宣言」から始まり、会場全員で「青年部綱領」を朗唱した後、前役員3名（川端慶也前部長岸本久靖副部長、吉村惇理事）の表彰が行われました。続けて、荒井翔悟青年部長が挨拶を述べた後、来賓を代表して、当JAの伊藤組合長と峰延農民協議会の切山信弘書記長から祝辞が述べられました。

その後、今総会の議長に尾高洋平氏が選出され、議事に入りました。提案された議案については、全案可決・承認されました。



青年部だより

With JA YOUTH Smile

Vol. 12

昨年度を振り返って

青年部 部長

荒井翔悟



新年明けましておめでとうござい
ます。組合員の皆様には、平素より
青年部の活動に對しまして、格別の
ご理解とご協力を賜り、心より御礼
申し上げます。

昨年度の青年部活動を振り返り
ますと、盟友数の減少という課題を
抱えながらも、盟友一人ひとりが役
割を担い、知恵と力を出し合いなが
ら活動を進めた二年であったと感じ
ております。厳しい営農環境が続く
中ではあります、青年部としてで
きることを模索し、前向きに取り組
んできました。

2月に実施したスノーメッセージで
は、光珠内の田んぼに融雪剤を用い、
地域名である「峰」の文字を雪面に
写しました。多くの盟友が参加し、

力を合わせて取り組むことで、青年
部としての団結力を改めて感じるこ
とができました。また、峰延という
地域の名前と青年部の存在を、地域
内外へ分かりやすく発信する良い機
会になったと感じております。

年度当初には新年会を開催し、
盟友同士の交流を深めるとともに、
農協職員の皆様との意見交換の場
を設けました。米価の動向や資材
価格の高騰、今後の営農支援の在り
方などについて意見を交わし、青年
部と農協が同じ方向を向いて地域
農業を支えていくことの大切さを再
認識する機会となりました。

営農面では、学習会において「バイ
オステイミューラント資材の活用」をテ
ーマに取り上げ、気候変動の影響が
大きくなる中で、作物の生育安定や
品質向上を図るための新たな知識
を学びました。また、現地研修会で
は「ドローンによる水稻直播」をテ
ーマとし、省力化や作業効率の向上と
いった将来の営農を見据えた技術に
ついて理解を深めることができました。

営農専門委員会が中心となつて
取り組んだ営農試験調査では、「さ
つまいもにおけるバイオステイミュー
ラント資材の活用」をテーマに試験栽

培を行い、収量や生育状況への効果
を検証しました。高収益作物とし
て注目される作物に対し、青年部な
らではの視点で挑戦できた意義のあ
る取り組みであり、その成果は青年
大会において報告しました。

環境保全への取り組みとしては、
6月および10月に農業用廃プラスチック
回収を実施しました。野焼きや
不法投棄を防止するだけでなく、回
収した廃プラスチックを適正に処理・
リサイクルすることで、実際に地域
の環境保全に貢献することができ
たと考えております。

また、9月から10月にかけて実施
した屑米集荷においても、多くの盟
友の協力により、安全かつ円滑に作
業を終えることができ、農協の集荷
および有利販売に寄与することが
できました。

年間を通じて実施した食育事業
では、美唄市内の幼稚園・保育園と
連携し、田植えや稲刈り体験を通
じて、子どもたちに農業の大変さや
食の大切さを伝えることができました。
普段なかなか触れることのない
農作業を体験する子どもたちの
姿は、私たち青年部員にとつても、農
業の価値を改めて見詰め直す良い機
会となりました。

昨年度は、米価の高騰という明る
い話題がある一方で、資材価格の高
止まりや気象変動など、先行きに
不安を感じる一年でもありました。
そのような中でも、青年部活動を通
じて新しい技術や考え方に触れ、挑
戦することの大切さと楽しさを多
く学ばせていただきました。これら
の経験を次世代へつなげていけるよ
う、今後の青年部活動、そして日々
の営農に生かしていきたいと考えてお
ります。

最後になりましたが、改めて組合
員の皆様をはじめ、農協並びに各関
係機関の皆様には、青年部活動へのご
理解とご支援を賜りましたことに
深く感謝申し上げます。今後とも
変わらぬご指導、ご協力をお願い申
し上げ、昨年度の総括とさせていただきます。



新年のご挨拶

青年部 部長
大友 翔 平



新年あけましておめでとうございます。

令和8年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げますとともに、平素より青年部活動に対しまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

過日、JAみねのぶ青年部第78回通常総会におきまして、青年部長という職責を仰せつかりました。歴代諸先輩方のご功績を顧みますと、自身がその重責を全うできるか身の引き締まる思いでございますが、ご推薦いただきました皆様のご期待にお応えできるよう、誠心誠意努力してまいる所存です。盟友並びに諸先輩方、また農協をはじめとする各関係機関の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、農産物生産につきましては、北海道全

体の水稻における主食用収穫量が約496、300tと前年を上回る見込みとなり、作付面積の拡大と相まって、安定した供給が期待される見通しとなりました。作況単収指数は98と平均をやや下回ったものの、営農現場における不断の努力により、収量品質の確保に努められた一年でありました。

また、畑作物につきましては、麦類において登熟が概ね良好に推移し、10a当たり収量は約540kg、平年比で105%程度の実績となっております。大豆につきましても、生育期の気象条件に恵まれ、10a当たり収量は約280kg、平年比116%程度と高水準で推移したとの分析が報告されています。これらの成果は、生産者の皆様の日頃の技術向上と営農努力の賜物であり、地域農業全体の底力を改めて感じさせるものでありました。

一方で、農業を取り巻く環境に目を向けますと、食料安全保障の確保、環境負荷低減への対応、農業経営の持続性確保など、農業政策は引き続き大きな転換期の中にあります。生産資材価格の高止まりや各種制度見直しへの対応など、現場における負担感はいまだ軽減さ

れたとは言い難く、地域農業を担う我々にとつて、先行きに対する慎重な判断と柔軟な対応が求められる状況が続いております。

このような情勢の中にあつて、我々青年部は、将来の地域農業を支える担い手として、一人一人が当事者意識を持ち、声を上げ、行動していくことが重要であると考えております。各種研修会や学習会を通じた知識・技術の習得はもとより、実践的な取り組みを積み重ねることで、農業者としての資質向上を図ってまいります。また、懇親会などを通じて盟友同士の結束をより一層深め、青年部としての組織力強化にも努めてまいりたいと存じます。

さらに、環境問題への取り組みとして、農業用廃プラスチックの回収事業などを継続して実施してまいりました。これらの活動が円滑に行われておりますのも、組合員の皆様の深いご理解とご協力の賜物であり、改めて感謝申し上げます。

各種事業の実施にあたり、日頃よりご理解とご支援を賜っております農協をはじめとする関係機関の皆様、諸先輩方、そして盟友の皆様、この場をお借りして重ねて御礼申し上げます。今後も、若手農業者で

ある青年部ならではの視点と行動力を生かし、地域に根ざした活動を積極的に展開してまいります。

結びに、皆様のご健勝とご多幸、そして本年が実り多き一年となりますことを心よりご祈念申し上げますとともに、今後とも青年部活動に対し、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。

青年部総会で選任を受けた 令和8年度の役員体制

部長	大友 翔 平
副部長（会計）	渡 辺 勇 太
副部長（組織）	白 石 慎 二
副部長（営農）	北 野 準 樹
理事	有ノ木 宏 哉
監事	吉 村 惇
監事	岸 本 久 靖



地区別懇談会を開催

12月4日、5日の日程で、JA3階大会議室において、農民協と合同で地区別懇談会が開催されました。

4日は午後だけの開催で峰延・峰樺・光珠内地区、5日は午前が豊葦・上美唄地区、午後が岩峰・大願・岩岡・中小屋・三笠市地区の組合員を対象に開催、81人の組合員の皆さんが出席しました。

伊藤組合長の開会挨拶後に、営農販売課から、令和7年の水稻を振り返り、6月上旬の低温で分げつが遅れたがその後の高温で出穂期・成熟期が早まり、南空知の作況単収指数は101で比較的良好となった。病害虫対策では、カメムシ対策で6月下旬～7月上旬の畦畔のイネ科雑草除去と出穂期とその7日後の2回を基本に茎葉散布が重要と説明がありました。また、主食直播品種の新品種「空育198号」はニーズに応えられる優れた品種として期待出来ると説明されました。販売価格の底上げ及び出荷の負担軽減を目的に設定した流通改革米は、全量運搬は難しく自己運搬方式に変更し前年同様に、出荷負担軽減対策を実施と説明されました。過



去5年の主食用米の集荷率と価格、追加概算払いの予定が説明されました。米、麦、大豆の各調製施設の施設ごとに調製結果が説明されました。

農業振興課からは、賦課金の徴収根拠となる賦課基準の見直しについて、現状と課題、見直し案に係る説明がされ、令和8年度からの見直しを検討と説明されました。

DX推進チームから、FAXに変わる新しい情報伝達手段として始めたJAコネクトの利用状況、意見に対する実施状況、現在の取組状況と今後の取組計画が説明されました。

他に、総務課から生活店舗の買い物カレンダーについて、金融課から「冬の定期貯金キャンペーン」「二時払終身共済」「二時払介護共済」について、夫々の担当者から説明されました。

JAからの説明後は、組合員の皆様から多くのご質問やご意見、ご要望について質疑応答が行われました。後日、これらの内容について整理したものをQ&A形式にて皆様にお知らせする予定です。

JAへの就職希望者100%就職内定

(令和7年度実績)

令和8年度入学生第3回募集

- 定員40名 ●男女共学 ●1カ年 ●寮完備(個室)/通学も可
- 受験資格：満27歳未満(令和7年4月1日現在)
大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込
- 試験日：令和8年2月15日(日)
- 願書受付：令和8年1月6日(火)～1月23日(金)消印有効
- オープンキャンパス随時開催中

JAグループ職員養成校



一般財団法人
北海道農業協同組合学校
〒069-0834 江別市文京台東町43-1
☎0120-918-417
【JAカレッジ】で検索

マネロン・金融犯罪対策への取組強化について

令和7年12月

代表理事組合長 伊 藤 俊 春

最近、様々な金融犯罪が発生し、その手法や手口も巧妙かつ高度になってきています。新聞等での報道を見て心配に感じておられる組合員・利用者の方々も多いのではないかと思います。また、国際的に金融機関が取り組まなければならない課題として、マネー・ローンダリングおよびテロ資金供与対策（以下「マネロン対策」）の重要性が益々高まっています。マネロン・金融犯罪対策に取り組むことは、信用事業を営む当組合の責務でもあります。

当組合では、金融機関としての信頼性を確保するため、そして、お客様の大切な財産を金融犯罪からお守りするために、マネロン・金融犯罪対策の取組みを重要な経営課題と位置づけて、一層力を入れて取り組むことといたします。

このたび、金融課長をマネロン・金融犯罪対策リーダーに任命し、組合全体としての取組みの定着化・高度化に向けて、職員の先頭に立って取組みを進めてもらう予定です。私を含め常勤理事もマネロン・金融犯罪対策が組合内で徹底されるよう指揮のうえ、組合員・利用者の方に安心して当組合を利用いただけるよう取り組んでまいります。

マネロン・金融犯罪対策リーダーと常勤理事



信用担当
高 田 専務理事



マネロン・金融犯罪対策リーダー
工 藤 金融課長